

千葉大学次世代人材育成計画

(Blueprint 2028 for Chiba University Global Education)

千葉大学ビジョン (R3.7)

「世界に冠たる千葉大学へ -Towards a world preeminent academic institution-」

Chiba
University
Aspirations

- 国際頭脳循環の中核として世界最先端の研究を展開
- 世界に学び世界に貢献する人材の育成 (Global Education)
 - ▶ 世界をキャンパスに最先端を学修できる優れた教育環境を提供
 - ▶ グローバル社会のリーダーたる資質とチャレンジ精神を涵養
 - ▶ 幅広い教養と豊かな知性ととも高度な専門性を錬磨
 - ▶ 国際未来教育基幹の強化による最高水準の先進的教育基盤を構築
- 運営基盤を強化し、持続的な発展を導く大学経営
- 社会に大きく貢献する千葉大学

世界をキャンパスに最先端を学修できる優れた教育環境を提供

○研究大学にふさわしい大学院教育の抜本的充実

学位プログラムとしての大学院教育を確立。コースワークを充実させ、海外大学の教育プログラムとの接続や、国際協働学習、国際インターンシップを内在化させる取組を実施。

○海外大学との国際的な教育連携の推進と全員留学の充実

ダブルディグリーの拡大とジョイントディグリーの実現を見据え、教育の質を担保したグローバル教育を推進。海外キャンパスや推進拠点、大学間交流協定を基盤とした海外留学プログラムの戦略的充実ときめ細やかな留学支援を実施。

グローバル社会のリーダーたる資質とチャレンジ精神を涵養

○課題解決人材・価値創造人材の育成と柔軟な教育体制の構築

教員の協業による文理融合・文理混合教育を推進し、既存の組織や学問分野にとらわれない柔軟なイシューベースの教育体制を構築。課題に応じたマイクロクレデンシャル教育プログラムを確立。学士課程においては積極性と主体性を備えた課題解決人材、修士・博士課程においては高い専門性と俯瞰的知識を持つ価値創造人材を育成。

○キャンパスにおけるダイバーシティの推進

学生・教職員において外国人や女性の割合を増加させるための施策を実行。障害を有する学生の学修を最大限支援。留学生、社会人との交流等も通じ、多様な経験と文化を有する学修者からなる色彩豊かなキャンパスを実現。

幅広い教養と豊かな知性ととも高度な専門性を錬磨

○学修者本位の教育改革の推進

学修成果の可視化とステークホルダーの評価に基づき継続的に見直す学位授与の方針に立脚した教育課程編成の方針及び入学者受入れの方針の改訂、学修成果の評価方法の確立等を体系的に実施。

○客観的・多元的な学修成果・教育成果の把握と学修支援の充実

各種アンケート調査を抜本的に見直し、教育の質保証を強化。ステークホルダーの評価を通じ教育プログラムを改善。在学生のデータを元に、学修ポートフォリオ（ダッシュボード）構築を実現し、個々の学生に応じた指導、組織的・体系的な学修支援・キャリア支援を実施。

国際未来教育基幹の強化による最高水準の先進的教育基盤を構築

○国際未来教育基幹の再編・強化

教育改革の責任母体として専任教員を置く高等教育センターを新設。“ENGINE”プラン推進のため、英語教育開発センター、国際教育センター、スマートラーニングセンターを整備。

○教育におけるDXの加速化とデータ駆動型教育改革の実現

教育IRに立脚したデータ駆動型教育改革を実現。ウィズコロナ、ポストコロナの教育のあり方を検討し、教育におけるDXを加速化。

千葉大学次世代人材育成計画 (Blueprint 2028 for Chiba University Global Education)

国際未来教育基幹
令和4年3月制定

■次世代人材育成計画

千葉大学は、学長のガバナンスのもとに教育改革を進めるべく、学長を基幹長、教育担当理事を副基幹長とした国際未来教育基幹を平成28年に創設した。国際未来教育基幹には、海外の高等教育事情や先進的な教育実践に精通している外部有識者を構成員としたアドバイザリーボードである基幹キャビネットを設置し、教育改革及び先導的教育プログラムに関する提案、助言及び評価を実施し、教育のグローバルスタンダードへの対応を推進している。

これまで、この基幹キャビネットの下に機動的な組織として教育関連の7つのセンターを配置し、教育改革の実施や学修・学生支援に取り組んできた。

令和4年度より始まる第4期中期目標期間では、高等教育において変化の激しい社会のニーズに迅速に対応し、課題（イシュー）ベースの教育を推進し、それを実現する組織を学位プログラムの形態で柔軟に形成していくことが求められている。そのためには、総合大学として真に文理融合・文理混合の教育を実現し、学部・大学院等の既存の部局の枠組を超えて、全学的視点から教育改革を推進することが必要となる。

千葉大学は、第4期中期目標期間を通じて、中山俊憲学長が示した千葉大学ビジョン「世界に冠たる千葉大学へ—Towards a world preeminent academic institution—」（令和3年7月策定）の下、世界に学び世界に貢献する人材の育成を目指し、4つの方針に基づき教育改革と学修・学生支援の実現に取り組む。

千葉大学ビジョン (Chiba University Aspirations)

「世界に冠たる千葉大学へ

—Towards a world preeminent academic institution—」

- 国際頭脳循環の中核として世界最先端の研究を展開 (World Leading Research)
- 世界に学び世界に貢献する人材の育成 (Global Education)
- 運営基盤を強化し、持続的な発展を導く大学経営 (Holistic Governance)
- 社会に大きく貢献する千葉大学 (Social Engagement)

■世界に学び世界に貢献する人材の育成(Global Education)

- ▶ 世界をキャンパスに最先端を学修できる優れた教育環境を提供
- ▶ グローバル社会のリーダーたる資質とチャレンジ精神を涵養
- ▶ 幅広い教養と豊かな知性ととも高度な専門性を錬磨
- ▶ 国際未来教育基幹の強化による最高水準の先進的教育基盤を構築

1. 世界をキャンパスに最先端を学修できる優れた教育環境を提供

(1) 研究大学にふさわしい大学院教育の抜本的充実

千葉大学は研究大学としての地位を確立するとともに、高度研究人材及び多様なキャリアパスを有する高度専門職人材を養成することを目指し、今後、学士課程教育に加えて大学院教育を抜本的に充実させる。そのためには「2040年を見据えた大学院教育のあるべき姿」(中央教育審議会、審議まとめ、平成31年1月)に示されている知のプロフェッショナルの養成に向け、学位プログラムとしての大学院教育を確立し、本学の強みと特色を活かした先進的な人材養成に取り組む。また、大学院においてもコースワークを充実させるとともに、本学の教育プログラムと海外大学や企業の教育プログラムを日常的かつシームレスに接続させ、オンライン・オフラインを問わず、国際協働学修や国際インターンシップを日々の教育活動に内在化させるための多様な取組を実施し、本学の研究力の強化に寄与する。

(2) 海外大学との国際的な教育連携の推進と全員留学の充実

3つの海外キャンパスを戦略的拠点として位置づけるとともに、14のIEC(国際交流センター)等のグローバル・キャンパスの推進拠点を通じて、「グローバル・キャンパス推進基幹」による統合的マネジメントを実施している。大学間交流協定を締結している海外大学は約500に及ぶが、今後は、それら拠点等を活用し、DD(ダブルディグリー)プログラムの発展・拡大を図り、JD(ジョイントディグリー)プログラムの実現を見据え、教育の質を担保した更なるグローバル教育の拡大推進を図る。

さらに、海外拠点、協定校を中心に、大学間連携を基盤とした全員留学のための海外留学プログラムを戦略的に充実させ、きめ細やかな留学支援を着実かつ安全に実現していく。

2. グローバル社会のリーダーたる資質とチャレンジ精神を涵養

(1) 課題解決人材・価値創造人材の育成と柔軟な教育体制の構築

令和2年度に開始した千葉大学グローバル人材育成“ENGINE”プランの着実

な実施を基盤に、学生の自発性・能動性を引き出しながら、グローバル社会のリーダーたる資質とチャレンジ精神を涵養する。そのために、教員の協業にもとづく文理融合・文理混合教育を推進し、既存の組織や学問分野にとらわれることのない柔軟な課題（イシュー）ベースの教育体制を構築する。そして、課題に応じたマイクロクレデンシャルレベルの教育プログラムを、千葉大学バンチプログラム（バンチ＝一房）として確立する。同時にこれまでの教育実績を踏まえ、千葉大学にふさわしい規模と質を備えたアクティブラーニングを実現する。これらを通じて、学士課程段階においては、地球社会から地域社会に至るすべての次元で必要となる喫緊の社会課題の解決や社会実装に資する積極性と主体性を備えた課題解決人材を育成する。修士・博士課程段階においては、高い専門性と俯瞰的知識を持ち、イノベーション創出に資する価値創造人材を育成する。

(2) キャンパスにおけるダイバーシティの推進

グローバル社会で活躍する人材を育成するためには、様々な文化や多様な価値観に触れながら、自らのアイデンティティを確立していく学修環境を形成していくことが重要となる。そのため、学部学生・大学院生・教職員のすべてにおいて外国人や女性の割合を増加させるための施策を実行し、障害を有する学生がその学修を進めるために最大限の支援を行い、留学生の受け入れ、送り出しや、リカレント教育の推進による社会人との交流等を通じて、多様な経験と文化を有する学修者からなる色彩豊かなキャンパスを実現する。

3. 幅広い教養と豊かな知性ととも高度な専門性を錬磨

(1) 学修者本位の教育改革の推進

「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」（中央教育審議会、平成30年11月）に基づき、教員が「何を教えたいか」「何を教えたか」という観点ではなく、学修者自らが「何を学び、身に付けることができたのか」という観点へ、教育の思想を根本的に転換していく。学修成果の可視化とステークホルダーの評価に基づき、学位授与の方針の継続的見直しに立脚した教育課程編成の方針の改訂、入学者受入れの方針の改訂、さらには学修成果の評価（アセスメント）方法の確立等を体系的に進めていく。これらの改革を通じて、学修者が幅広い教養と豊かな知性、高度な専門性の双方を身に付けることができるようにする。

(2) 客観的・多元的な学修成果・教育成果の把握と学修支援の充実

客観的・多元的な学修成果・教育成果の可視化を踏まえた教育改善に向け、現在実施している各種アンケート調査の抜本的な見直しに取り組み、教育の質保証の強化、ステークホルダーの評価を通じた教育プログラムの改善を図る。

また、在学生に係る調査結果のデータを元に、全学的に学修ポートフォリオ（ダッシュボード）の構築を実現し、学生自身の学修計画の立案とキャリア形成

に活用する。また、教員や学修支援専門職（SULA）による個々の学生に応じた指導や組織的・体系的な学修支援・キャリア支援を充実させる。

4. 国際未来教育基幹の強化による最高水準の先進的教育基盤を構築

(1) 国際未来教育基幹の再編・強化

教育改革を全学的に実現するためには、それを実行する中核的組織が必要となることから、国際未来教育基幹を再編し、新たに高等教育センターを設置する。

高等教育センターは、これまで教育改革を推進してきたイノベーション教育センターの機能を強化・発展させ、専任教員を置く教育改革の責任母体として設置され、大学院教育の抜本的改革、データ解析を通じたデータ駆動型教育への一層の転換、文理融合・文理混合教育の推進、課題（イシュー）ベースの教育体制の構築、全学的な学位プログラムの構想の立案等に取り組み、真の学修者本位の教育の実現を目指す。

基幹キャビネットの下には、高等教育センターのほか、“ENGINE”プランのさらなる推進のため、英語教育開発センター、国際教育センター、スマートラーニングセンターを整備、全学教育センター、学生支援センター、入試センターと合わせ全7センターを設置し、アカデミック・リンク・センターと協働しつつ、最高水準の先進的教育基盤を構築する。

(2) 教育における DX の加速化とデータ駆動型教育改革の実現

学修者本位の高等教育を実現するために、エビデンスとデータにもとづいた学修者のポートレート、意識、満足度を継続的に調査し、教育 IR に立脚したデータ駆動型教育改革を実現する。これまでのスマートラーニングの実績を拡大し、世界をキャンパスに最先端の課題を学修できる優れた教育環境を提供する。また、ウィズコロナ、ポストコロナの教育のあり方を検討し、教育における DX の加速化を図る。合わせて、教員や職員の活動をデータにもとづいて継続的に改善し、学生・教員・職員のすべての大学構成員が主体的に教育改革に携わる体制を確立する。